

被災薬局薬剤師による災害時避難所支援を志向した机上研修プログラム  
(DT-Ph) の開発と検証

(永田実沙ほか：日本災害医学会誌 2018; 23: 14-21)

2019年1月25日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

【はじめに】

大規模災害時における、被災地支援に従事できる医療従事者の人的資源の獲得が必要とされている。特に被災者の集まる避難所での、感染症予防・拡大防止や公衆衛生・健康管理を担える人材が求められている。その役割を担うことに薬局薬剤師が期待されている。薬局薬剤師に対して行われた意識調査で、薬局薬剤師に対する啓発的な災害対応研修が不足していることがわかり、本研究では薬剤師向けの災害時避難所支援研修プログラムの開発に着手した。本プログラムは、地震後に病院内で発生する医療行為以外の事案に、施設の図面を使用して対応を考える机上訓練プログラム (DT-H) を踏襲したものである。加えて、内容を目的・ニーズに合わせて再構築することで薬局薬剤師が災害支援に興味を持ち、より高度な研修受講への意欲を高めるプログラムとなっている。作成した研修プログラムを2団体に実施し、提示する事案に対応する対応やアンケート結果などから研修効果を検証した。

【方法】

本プログラムは、薬局薬剤師を幅広く対象とした裾野の広いプログラムとするため以下の4点に重点をおいた。①災害時の混乱や避難所を具体的に想像すること、②その場で考えられる最善な対応を話し合うこと、③必要な情報取得と行動をシミュレートする思考訓練をすること、④薬局の業務を活かせる支援があることに気づくこと。しかし、これまで災害支援に関わることがなかった薬剤師には、避難所の様子が想像できないことが考えられる。そのため本研修では、避難所を具体的にイメージできるように避難所運営ゲーム (HUG) を行い、その後大規模災害時に薬局薬剤師による避難所支援を想定した研修プログラム (DT-Ph) を行う二部構成とした。第二部の DT-Ph はその冒頭に、薬剤師が持参する支援物質を自薬局から選ぶプレワークを実施する。この際選んだ物質を後に提示される事案の対応に用いてよいとすることで、避難所でどのような物品が必要かを考えることを促している。プレワークの後に、参加者に避難所で生じる事案への対応を検討させた。15種の「事案カード」を提示させ、その対応と、人の派遣、避難所運営本部への警告、避難所運営本部以外への報告などへの対応を検討させた。作成した研修プログラムは、神戸市薬剤師会員29名と株式会社J未来メディカルきららみらい薬局グループ28名を対象に行った。匿名化した上で連結された研修前にプレアンケートと研修後にポストアンケートを実施し、その結果の比較を Fisher の正確確率検定で行い、統計解析には JMP Pro11.2 を用いた。

【結果】

第一部の HUG では、HUG 内で生じるイベントに対応する役割と避難所を誘導する役割に分かれる分業傾向があったが、第二部の DT-Ph では、事案カードを手にした参加者を中心に、メンバーそれぞれが意見を述べ討議する様子がみられた。医療系の事案に対しては、様々な対応例や解決方法をあげる傾向がみられた。緊急性かつ継続的なフォローが必要な事案については、引継ぎや連絡についても考える傾向にあった。一方、ロジスティクス方面への対応については、本部の指示を仰ぐなどの受動的または他者依存的な対応をとるグループも散見された。また、「薬を必要としている人が薬局の前に並んでいる」という事案に対しては、多くのグループでは対応に自信があると答えている。

参加者のうち遅刻者 9 名と薬学部実務実習生 1 名を除いた 47 名を対象にアンケート結果を解析した。本研修プログラムに対する得点は、「全体を通してこのプログラムはどうでしたか」は平均 4.8 点、「このプログラムを周囲に勧めたいですか」は平均 4.7 点であった。また、被災地支援への意欲については、プレアンケートとポストアンケートでの比較では、ポストでは意欲が高い傾向にあった。また、薬局薬剤師が行うことでどのぐらい貢献できるかという質問に対しては、ポストアンケートの方が「薬局薬剤師が貢献できる」と肯定的な回答が統計学的に有意に増加した。

#### 【考察】

医療系の事案は、普段の業務でも生じうることであるため、対応と意思決定の過程に共通の認識があると考えられる。対応が困難だと判断された事案は、他の事案より緊急性のあるものであり、薬局薬剤師にとってなじみの薄い事案であったため、対応が困難だと判断したと考えられる。研修プログラム自体へは高い評価が得られたため、本研修は薬剤師にとって受け入れられるものと考えられ、薬剤師として災害支援に関わることへの意識向上につながったと考えられる。本研修を通して、薬局薬剤師による災害支援の役割を果たせる可能性が示されたが、その確認には本研修参加者が今後も継続的に災害研修を受講するなどの追跡調査が必要となる。

#### 【結論】

本研究は、裾野の広く参加しやすい薬局薬剤師対象の研修プログラムの開発・実施し、アンケート結果によりその有用性を検証したものである。今回の結果では、様々な災害時の支援に対して薬剤師が貢献できるという意識の向上が見られ、薬局薬剤師の災害支援への参加の敷居を下げられたと考えられる。本研修は裾野を広く参加しやすい研修プログラムに重きを置いているが、実施した結果では参加者の意欲や知識、求めるものは多様であることが判明した。参加者の意欲に合わせて、内容の難易度や制限時間などを調整し、薬局薬剤師による災害支援の裾野を広げていく研修プログラムという目的を果たし、現在ある、専門性の高い災害研修プログラムと参加者のニーズのギャップを埋めることに繋がると考えられる。